

研究テーマ ●一人ひとりのニーズに応じる学習支援プログラムの開発と検証

雲井 未歓 教育学部•学校教育(障害児教育)•障害児心理学 准教授

研究の背景および目的

障害とは人の心や身体の状態ではなく、環境との関係で生じるものです。障害者の支援は、その人の 能力だけではなく、環境を整えることにも重点が置かれるようになってきました。とくに学校教育で は、一人ひとりに合わせた多様な学習方法を用意することが重要な課題です。近年の認知科学的手法 は学習や発達の諸側面を個人の多様さとの関連で解明することを可能にし、この点からの障害へのア プローチと実践での効果検証に基づき、有効な支援方法を提案することを目的とします。

■おもな研究内容

認知科学的アプローチによる障害理解と連携協力による支援方法の開発

学校・家庭・地域 (教員・保護者・医療福祉関係者)

情報提供 • 研究協力 相談 · 個別指導 · 研修 »





児童サークル (発達障害等)

←学部農場でのサツマイモ栽培

コミュニケーションの発達支援

(重症心身障害等)



支援方法・ 機器の開発

による研究

障害の理解と 支援方法の開発

行動・学習・発達と 脳の働きの関係を解明

(生理指標による認知科学的アプローチ)

読み書きの学習支援

(学習障害等)



学習教材の開発

↑漢字学習の個別指導

脳血流測定(NIRS) による研究

期待される効果・応用分野

MANNAMANAMA

-例として読み書きの学習にニーズのある児童生徒では、個々の認知発達の特徴(特性)に基づき、 支援の方法を具体的に提案するシステムとなります。障害の重い児童生徒では、初期発達段階のコ ミュニケーションを促進する学習プログラムを開発します。評価と指導は連携・協力して行い、一人 ひとりに合わせた丁寧な指導と組織全体で取り組む特別支援教育のさらなる充実に向けて研究を進め ていきます。福祉や療育分野での展開も可能な研究です。

■共同研究・特許などアピールポイント

- ●小・中・特別支援学校をはじめとして、教育組 織との共同研究を望んでいます。
- ●暗号化システムの採用により個人データは厳重 に保護されます。

コーディネーターからー

脳波・心拍・脳血流など認知科学的手法で、 個性に合わせた障害児支援を可能にする研究

教育現場との協同で実践的プログラム開発が 可能になります

研究分野 特別支援教育、障害児心理学、認知科学、教育工学 キーワード 認知特性、教育的ニーズ、教材開発、発達と学習、生理的指標